

職場に伝える『新・安否確認システム V'jica(ヴジカ)』

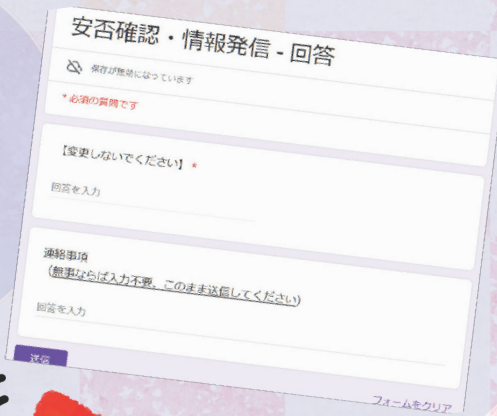
土屋防災委員会では、土屋グループの各事業所ごとに事業活動を継続するための計画「BCP」を作成し、重要な業務の継続や復旧に必要な資源（人員、設備、データなど）を確保するための対策を講じています。

災害時に従業員の安全確保やコミュニケーション手段を整備することは、クライアントの命と生活を守ることに繋がります。

その実効性を確認しながら計画に従って行動できるように、定期的に訓練や演習を実施して計画の改善点を見つけ、必要に応じてBCPを更新する必要があります。

2月から『災害対応シミュレーション訓練』の実施と共に、『新・安否確認システム V'jica(ヴジカ)』の運用訓練を順次開始しました。今後も訓練を重ね、いざという時には、職場への安否確認がスムーズに行えるよう目指しています。

実際には震度5弱以上の地震発生時に自動で、その他災害時には手動で皆さまにメールが発信されます。



おーい
無事かー？



メール内のフォームを開いて特に伝えたいことが無ければ、**送信** を押すだけで完了です。

開発者の小澤明久さん（本社マーケティング部）にお話を伺いました！

前期防災委員会委員長から依頼を受けて安否確認システムを開発したとお聞きしました。作成し始めた時のお気持ちと、作成時にこだわったところはどこでしょうか？

支援の時間をアテンドにメールでお知らせする『リマインドメールシステム』を先行して完成させていたので、技術的なハードルは低く、特に難しさや大変さは感じませんでした。

リマインドメールシステムも手掛けられたのですね！

システムを作るうえで心がけたのは、『できるだけ費用を発生させない』『できるだけシステムを使う人に考えさせない』の2点です。費用については、土屋の社員規模ではさすがにゼロという訳にはいきませんでした。社員数が20名程度であれば無料で構築・運用できる可能性が高く、満足しています。『考えさせない』は、土屋がIT企業などではないことを前提に、もっとも時間を掛けて考え、細かいところまで工夫しました。

では、今回ヴジカが実際に始動し、訓練が行われている今のお気持ちをお聞かせください。

まだシステムを認知していただいている段階であり、本当の意味での訓練には至っていませんが、繰り返し行うことで馴染んでいただき、来たる実際の災害の際に『1人も取り残さない』の一助になれば……と思っています。

皆さま、ヴジカをよろしくお願ひ致します！

災害用伝言サービス 録音時間：30秒（10件まで）（「NTT東日本災害への取り組み」より）

伝言ダイヤル 171	171をおし、録音は「1」、再生は「2」、音声ガイドに従い予めお互いで決めた電話番号を入力すると、伝言の録音・再生ができます。
災害用伝言板 (web171)	ネットでweb171にアクセスし、予めお互いで決めた電話番号と伝言を入力します。この電話番号全国（国内外）から伝言の確認や追加をすることができます。また、伝言ダイヤル171に登録されたメッセージを確認することもできます。
171 体験利用提供日	毎月1日と15日（00時00分～24時00分）、正月3が日（00時00分～24時00分） 防災週間（00時00分～24時00分）、 防災とボランティア週間（1月15日9時00分～1月21日17時00分）

【土屋防災委員会】の

 をフォロー
お願いします！
エックス

 アカウント登録
をして、防災に
関する様々な
情報を得る！！